

派遣報告書

令和 5 年 3 月 3 1 日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会
(代表) 議員 藤井 隆弘

次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

記

- 1 派遣期間 令和5年3月27日(月)から令和5年3月29日(水)まで
- 2 派遣先

(1) 広島県尾道市	3月27日(月)	10:00~12:00
(2) 福岡県八女市	3月28日(火)	10:00~11:30
(3) 大分県大分市	3月29日(水)	9:30~11:00
- 3 視察議員名 藤井 隆弘、大月悦子、丸田 克孝、福谷 直美
- 4 面会者

(1) 尾道市	・NP0法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事 豊田雅子氏
(2) 八女市	八女市定住対策課町並み景観係 牛島菜々美氏 他
(3) 大分市	大分市議会議長二宮博氏、大分市議会議員仲道俊寿氏、 同帆秋誠悟氏 他同市議会事務局職員
- 5 派遣目的

(1) 尾道市	NP0法人尾道空き家再生プロジェクトの取組について
(2) 八女市	コミュニティ通過「まちのコイン」事業について
(3) 大分市	防災会議と議会BCPについて
- 6 視察の経過及び感想
別紙参照
- 7 添付書類
 - (1) 面会者名刺(写し)
 - (2) 視察先提供資料(写し)
 - (3) 写真

要した経費： 4人、合計 356,920円

視察・調査の経過及び感想

(1) 広島県尾道市（NPO法人尾道空き家再生プロジェクトの取組について）

〔視察の経過〕

NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事豊田雅子氏と再生物件、①松翠園 ②三軒屋アパートメント③北村洋品店④旧和泉屋別邸⑤あなごのねどこ等を視察。豊田雅子氏の話。尾道市は固有の町並みや建物があり、とくに山手地区に多い。高齢化の進行などで空き家が多い（7700件）。プロジェクトでは、それらの空き家を再生し、新たな活用を模索している。

活動内容は、①尾道のユニークな建物や町並みを専門家とともに散策する「たても探訪編」と再生現場での実際の作業を体験する「再生現場編」の『尾道建築塾』、②尾道の空き家問題と関わりのあるゲストを招いて情報交換をする会『空き家談議』、③空き家再生の修復費用を捻出するため、それぞれの再生物件で様々なイベントを開催する『空き家再生イベント』、④尾道の空き家が放置される理由の一つである傾斜地での家財道具リユースのための再生物件現場での蚤の市『現地でのチャリティ蚤の市』、⑤ピクニックを楽しみながら、傾斜地に点在する空き地の活用方法を考える『空き地再生ピクニック』、⑥市民に空き家問題に対する理解を深めてもらうために開催するシンポジウム『まちづくり発表会』を行っている。

再生物件は、視察をした物件を含め現在20件ほどある。「旧泉家別邸」（通称尾道ガウディハウス）は、昭和8年に泉家別邸として一人の大工が3年かけて建てた建物である。2007年より空き家再生のシンボルとして再生している。再生完了後は和の空間を活かした貸しスペースや短期滞在可能な貸家としての活用を考えている。

「北村洋品店」は、昭和30年代に立てられた木造モルタル2階建て。長年空き家で、雨漏りと主要構造部の腐食とシロアリ害で痛みがひどかった。子連れのママさん達が赤ちゃんや小さい子ども連れが楽しめるような家に使用という目的と、再生過程で多くの人に関わってもらい楽しさを感じてもらい（ボランティア活動）家にしようというコンセプトで再生した。「三軒屋アパートメント」は、10部屋空き家となった昭和の古いアパートを物作りの発信拠点として再生させている。工房やギャラリー、カフェなど入居者自身によるDIYで自由な空間を作り出している。

〔感想〕

尾道市でも空き家問題は深刻である。NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事豊田雅子氏は、尾道の出身で、海外の町並みを知るほど日本のまちづくりがどこも一緒で、尾道の特色を活かしたまちづくりに生かしたいと空き家の活用を精力的に進めておられる。基本的には補助金に頼らず、様々な人材、200名近い会員組織等と協力しながら「空き家×建築 空き家×環境 空き家×コミュニティ 空き家×観光 空き家×アート」の5つの柱でまちづくり」という方針で持続可能な活動で参考となる。

(2) 福岡県八女市（コミュニティ通過「町のコイン」事業について）

〔視察の経過〕

八女伝統工芸館で八女市定住対策課町並み景観係牛島菜々美氏他同市職員と面会。八女市は八女茶や電照菊やいちご等付加価値の高い農産物生産、さらに国指定の伝統的工芸品の「八女福島仏壇」「八女提灯」や「八女石灯籠」「八女手すき和紙」等伝統工芸品が八女伝統工芸館に一堂に展示されており視察。

会議室に移動して、コミュニティ通貨「町のコイン」事業について説明を受ける。

①八女市の課題とミッション：人口減少、特に若者の再転入・新規転入が減少。

八女市のミッション＝人口減少を食い止める。その1つ＝関係人口創出

②関係人口創出拠点（つながるバス停）

1. 誰でも利用できるコミュニティライブラリー
2. 八女茶を飲めるカフェスペース
2. 地域の魅力ある「八女人」を紹介するコーナー
4. 八女杉を使用した本棚や建物
5. 町のコインの使い方を教えてくれる

③町のコイン

- ・コミュニティ通貨「まちのコイン」⇒「関係人口」をつくる。
- ・スマートフォンやタブレットにアプリを入れて「ロマン（通貨単位）」とやりとり。
- ・八女市内のスポット（加盟店）でのみ利用できる。
- ・ロマンは円に換金できない。「体験」との交換で行われる。
- ・使っていないロマンは180日で運営団体に回収される。
- ・全国で20地域が導入。鳥取県では智頭町が導入。
- ・ロマンのユーザー数：約5300人（2023年3月現在）。ユーザーの4割が地域外。

〔感想〕

八女市の課題である人口減少解消のための施策の一つとしての取組。現金に換えられるというのではなく、体験を通してのつながり・ファンをつくっていく視点はおもしろいと感じた。実際、「まちのコイン」を通じて移住の相談もあった。ポイントはアイデアとマンパワーに加え覚悟という説明が印象的であった。

（3）大分県大分市（防災会議と議会BCPについて）

〔視察の経過〕

大分市庁舎議会棟第1委員会室において大分市議会議長二宮博氏、同議員仲道俊寿氏、同帆秋誠悟氏等と面会、議長挨拶の後仲道俊寿氏、帆秋誠悟氏の説明を受ける。

議会BCP策定に至る経過。平成24年12月、市長に対し「災害対策に関する提言書」（議会として防災に関する取組を全議員で構成する大分市議会議員政策研究会で取りまとめた内容）を提出した。その中の「議会の役割」において「大分市議会防災会議を設置し、本市の災害対策について監視するとともに、災害発生時には、大分市議会災害時対策会議を設置し、大分市災害対策本部と情報の共有を図る中で、迅速な対応、復旧、復興に向け協力する。」としたことを受け、大分市議会防災会議設置要綱及び大分市議会災害時対策会議設置要綱を平成25年2月に制定した。

また、「大分市議会防災会議の初動体制」、「大分市議会災害時行動マニュアル」を作成するとともに、「議会BCP」を策定し、「防災会議と議会BCP」として平成28年12月に一冊にまとめた。令和4年3月には、感染症に関する「議会BCP（感染症対策編）」を策定した。

「大分市議会防災会議」は、常設の機関で、地区組織を置き、議員はいずれか一つの地区組織に所属し、危険箇所等の視察、訓練等参加、研修・講演会の開催等行う。

「大分市議会災害時対策会議」は、市域内で震度5強以上の地震発生時等に設置、災害情報の共有、応急対策、復興等について検討、必要に応じて市長に対し提言等行う。

災害発生時の定例会における議案審議継続のための事業計画では、定例会の招集前から最終日の6つの期間（①告示前、②告示後、③本会議開催、④一般質問中、⑤委員会審査、⑥閉会日開議）に分け、6ケースで具体的な運営マニュアルを作成している。

大分市議会の取組等としては、①防災訓練：議場等における地震発生を想定した訓練（平成26年以降毎年実施）、議会BCPに則った訓練を行っている。②大分市議会防災服の貸与。③タブレット端末の活用（令和4年10月に、全議員44名に配布）

〔感想〕

倉吉市においても議会BCPの策定は本年度行ったが、具体的な運用についてはこれからであり、先進事例として大分市の取組はとても参考になった。特に、大分市議会防災会議における平時の議会としての取組、大分市議会災害時対策会議設置時のケースに応じた具体的な運用は倉吉議会としても検討すべきであると考えている。大人数の議会でありながら全議員が同じ方向で進める秘訣を大分市議会基本条例策提示の苦労話をうかがう中でいただけ、今後の取組の参考としたい。

<尾道市>



松翠園



北村洋品店



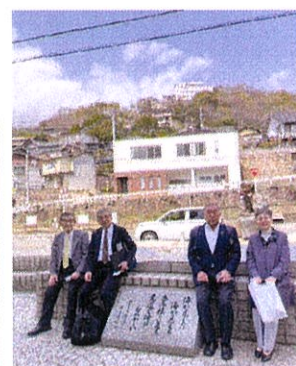
三軒屋アパートメント



旧和泉屋別邸



あなごのねどこ



林芙美子像前で

<八女市>



八女伝統工芸館外観



八女伝統工芸館内①



八女伝統工芸館内②



研修



視察後（工芸館）



研修①



研修②



挨拶の後①



挨拶の後②